

平成30年度 松山東高等学校シラバス

| | | | | | | | |
|-----|----------------|-----|------------|----|------|----|----|
| 教科 | 国語 | 科目 | 現代文 | 学年 | 第3学年 | 類型 | 共通 |
| 単位数 | 2単位 | 教科書 | 現代文B（教育出版） | | | | |
| 副教材 | 新国語総合ガイド（京都書房） | | | | | | |

| | |
|------|---|
| 学習目標 | 近代以降のさまざまな文章に触れて読解・鑑賞の能力をいっそう向上させ、認識力・思考力・感受性を養うとともに、現代社会の複雑多様な言語生活への適応を図り、人間性の向上に努める。現代の言語文化を享受できるような読書力を拡充し、人生を豊かにする。 |
|------|---|

| | 単元 | 主な単元の目標 | 教材 | 評価の観点 | | | | | 定期考査 | |
|---------|----------------|-------------------------|---|----------------------|---|---|---|---|------|-----|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | | |
| 1 学期 | 4月 5月 | 作品読解への理解を深め、自分の考えを表現する。 | ・主人公の心理を情景描写との関係でとらえることで、文学作品の読解に関して理解を深め、それについて効果的に表現する。 | 小説 舞姫 | ○ | | | ◎ | ○ | 第1回 |
| | 6月 | 感性を磨く。 | ・随筆の表現を読み味わい、生きることにについて考えを深める。 | 随想 後生の桜 | ○ | | | ◎ | ○ | |
| | 7月 | 要約力を磨く。 | ・接続詞の使い方に留意して要約する力を身に付ける。 | 評論 問われる「身体」の生命 | ○ | | ◎ | ○ | | |
| 2 学期 | 8月 9月 | 論理展開を分析する力を養う。 | ・段落構成に対する意識を持ち、本文全体の論理展開を分析する力を養う。 | 評論 〈私〉はどこへ行く？ | ○ | | | ◎ | ○ | 第2回 |
| | 10月 | 批評を通して理解を深める。 | ・現代について書かれた文章を読み、人間、社会、自然についての考えを深める。 | 評論 技術の変質と二十一世紀の課題 | ○ | | | ◎ | ○ | |
| | 11月 | 登場人物の心理変化を読み取る。 | ・登場人物の心理変化を読み取り、作品主題の普遍性を理解する。 | 小説 おどる男 | ○ | | | ◎ | ○ | 第3回 |
| | 12月 | 詩歌を読み味わう | ・詩歌の背後に隠された作者の意図を鑑賞する。 | 現代の短歌 | ○ | ◎ | | ○ | | |
| 3 学期 | 1月 2月 3月 | 要約力を磨く。 | ・字数に合わせて書き分ける力を養う。 | 評論 ソメイヨシノ革命 | ○ | | ◎ | ○ | | |

| | |
|-------|---|
| 学習の方法 | 授業では難度の高い文章を深く読み込み、内容を的確に理解していきます。教材によっては調べ学習や発表、スピーチを行います。また、グループ学習を行い、周りの人と話し合う機会を多く設けます。家庭での予習は欠かせません。予習で生じた疑問点を授業で解決し、どこが重要な点かをはっきりつかみましよう。年3回の定期考査や小テストを利用して、基礎学力を定着させていきます。 |
|-------|---|

| | |
|-------|---|
| 評価の仕方 | 定期考査に加え、提出物、小テストの成績などを総合的に評価します。 また、平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や参加姿勢に加え、読解力・理解力・聞く能力・表現力・語彙力などを総合的に評価します。 |
|-------|---|

| | |
|-------|--|
| 評価の観点 | ① 関心・意欲・態度 ② 話す・聞く能力 ③ 書く能力 ④ 読む能力 ⑤ 知識・理解 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。) |
|-------|--|

平成30年度 松山東高等学校シラバス

| | | | | | | | |
|-----|------------------------|-----|-------------|----|------|----|----|
| 教科 | 国語 | 科目 | 古典B | 学年 | 第3学年 | 類型 | 理系 |
| 単位数 | 2単位 | 教科書 | 精選古典B（東京書籍） | | | | |
| 副教材 | 新国語総合ガイド・新しい古典文法・新明説漢文 | | | | | | |

| | |
|------|---|
| 学習目標 | 古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする。 |
|------|---|

| | 単元 | 主な単元の目標 | 教材 | 評価の観点 | | | | | 定期考査 |
|-------------|--------------------------|---|------------------------------|-------|---|---|---|---|------|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | |
| 1 学 期 | 4月 | 物語を読み味わう。 ・物語を読み、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 | 源氏物語 | ○ | | | ◎ | ○ | 第1回 |
| | 5月 | 文章を読み味わう。 ・筆者の論理を理解する。 | 漁父辞 | ○ | | | ◎ | ○ | |
| | | 史話を読み味わう。 ・登場人物の行動を理解する。 | 十八史略 | ○ | | | ◎ | ○ | |
| | 6月 | 随筆を読み味わう。 ・思想や感情を的確にとらえる。 | 徒然草・玉勝間 | ○ | | | ◎ | ○ | |
| | | 7月 | 俳論を読み味わう。 ・俳論を読み、論旨を読み取る。 | 去来抄 | ○ | | | ◎ | |
| | 漢詩を味わう。 ・情景や心情を読み味わう。 | 唐詩 | | | | | | | |
| 2 学 期 | 8月 | 評論を読み味わう。 ・評論を読み、その論旨を読み取る。 | 無名抄・俊頼髓脳 源氏物語玉の小櫛 | ○ | | | ◎ | ○ | 第2回 |
| | 9月 | 史記を読み味わう。 ・登場人物の生き方を通して人間のあり方について関心を深める。 | 荊軻伝・韓信伝 | ○ | | | ◎ | ○ | |
| | 10月 | 物語を読み味わう。 ・物語を読み、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 | 落窪物語・堤中納言 物語・源氏物語 | ○ | | | ◎ | ○ | 第3回 |
| | 12月 | | | | | | | | |
| 3 学 期 | 1月 2月 3月 | 評論を読み味わう。 ・古文に関する現代の評論を読み、新たな視点から古文の価値について考える。 | 和歌というメディア | ○ | | | ◎ | ○ | |

| | |
|-------|--|
| 学習の方法 | 文章について分析し、内容を深く理解する。その上で、評論・文芸にかかわらず、筆者の考え方や登場人物の行動についての自らの考えを明確にする。 機会をとらえて、班やクラスでの話し合いを行うので、場に応じた話し方や説得力のある文章構成等、個々の表現能力を磨き続けなければならない。 年3回の考査や実力テストを通して、大学入試等に必要な力を養っているか検証する。 |
|-------|--|

| | |
|-------|--|
| 評価の仕方 | 予習は当然行うものとして準備する。発表、話し合いなどの日常の取組についても評価の対象とする。よって、文法力・語彙力、漢文独特の句法・歴史、古典の知識（有職故実等）も鍛えておく必要がある。 定期考査による評価に加え、夏季・冬季の長期休業で与えられる課題（意見文、感想文、サブテキスト等）や平常の小テストの成績などを総合的に評価していく。 |
|-------|--|

| | |
|-------|--|
| 評価の観点 | ① 関心・意欲・態度 ② 話す・聞く能力 ③ 書く能力 ④ 読む能力 ⑤ 知識・理解 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。) |
|-------|--|

平成30年度 松山東高等学校シラバス

| | | | | | | | |
|-----|-----------------|-----|--------------|----|------|----|-----|
| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 世界史A | 学年 | 第3学年 | 類型 | II型 |
| 単位数 | 1単位 | 教科書 | 明解世界史A（帝国書院） | | | | |
| 副教材 | 明解世界史Aノート（帝国書院） | | | | | | |

| | |
|------|--|
| 学習目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解する。 ・人類が直面する課題を政治・経済・社会・文化・生活など様々な観点から考察することによって、歴史的思考力を養う。 ・国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を身に付ける。 |
|------|--|

| | 学 習 計 画 及 び 内 容 | 評価の観点 | | | | | 定期考査 | |
|-------------|------------------------------|--|---|---|---|---|------|---|
| | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | | |
| 1 学 期 | 4月 2部 地球社会と日本 1節 冷たい戦争の時代 | <ul style="list-style-type: none"> ・米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解し、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察する。 ・市場経済の世界化や米ソのゆらぎや冷戦の終結などから、世界が大きく変容したことを理解する。 ・日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向を模索し、これからの国際社会における日本の役割について考察する。 | ◎ | | | ○ | 第1回 | |
| | 5月 2節 冷戦終結への道のり | | | ○ | | ◎ | | |
| | 6月 3節 地球社会への歩み | | | | ◎ | | | ○ |
| | 7月 4節 持続可能な社会をめざして | | ○ | | ◎ | | | |
| 2 学 期 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 3 学 期 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

| | |
|-------|---|
| 学習の方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書・ノートを活用して世界の歴史における基本的な事象・人物等についての整理・理解をしていく。 ・人名や事件の名称を単に暗記するのではなく、歴史事象の背景や結果とその影響などを総合的に理解・考察していくことが大切です。 |
|-------|---|

| | |
|-------|---|
| 評価の仕方 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査に加え、小テスト・提出物の成績などを総合的に評価します。 ・平常の取組についても評価の対象とします。 ・世界史に関する知識理解はもちろん、歴史に対する興味関心の程度、過去との出来事を分析し、現在や未来に結びつけて物事を考察する歴史的思考力などを総合的に判断して評価します。 |
|-------|---|

| | |
|-------|--|
| 評価の観点 | ① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 資料活用の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。） |
|-------|--|

平成30年度 松山東高等学校シラバス

| | | | | | | | |
|-----|-------------------------------|-----|-----------------|----|------|----|----|
| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 日本史B | 学年 | 第3学年 | 類型 | Ⅱ型 |
| 単位数 | 3単位 | 教科書 | 詳説日本史改訂版（山川出版社） | | | | |
| 副教材 | 新詳日本史（浜島書店） 詳録新日本史史料集成（第一学習社） | | | | | | |

| | |
|------|--|
| 学習目標 | 我が国の歴史の展開について、世界史的視野に立って各時代の特色及び変遷を総合的に考察し、我が国の文化と伝統についての認識を深める。 また、歴史学習を通じて、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。 |
|------|--|

| | | 学習計画及び内容 | 評価の観点 | | | | | 定期考査 |
|-------------|-----|------------------|---|---|---|---|---|------|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | |
| 1 学 期 | 4月 | 第6章 幕藩体制の確立 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 桃山文化、幕藩体制が確立した時期までを世界史的背景と国内の政治、社会の動向と関連に着目して幅広く学習する。 ・ 幕藩体制の下で発展する農業や商工業、その他の諸産業の展開とその社会的な役割及び都市や農村で生み出された文化の特色を学習する。 ・ 農村を基盤とする幕藩体制が動揺していく過程と、社会・経済の発展の中で近代を準備する新しい要素が形成されてきたことを学習する。 | | | ○ | ◎ | 第1回 |
| | 5月 | 第7章 幕藩体制の展開 | | | ○ | | ◎ | |
| | 6月 | 第8章 幕藩体制の動揺 | | | | ○ | ◎ | |
| | 7月 | | | ◎ | | ○ | | |
| 2 学 期 | 8月 | 第9章 近代国家の成立 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 開国後の我が国が国家的独立を維持しながら政治・経済・社会・文化の全般にわたってどのように近代化を推進したかを、多面的・多角的に学習する。 ・ 第一次世界大戦から第二次世界大戦の終結に至るまでの我が国の歴史の展開について、国内の動向と世界情勢との関連に留意し学習する。 ・ 第二次世界大戦後の我が国の民主主義国家としての再生の過程や政治の動向、新しい外交関係、日本経済の発展、国民生活の向上などを世界の動きと関連させて総合的に学習する。 | | ◎ | | ○ | 第2回 |
| | 9月 | | | | | | | |
| | 10月 | 第10章 二つの世界大戦とアジア | | ◎ | | ○ | | 第3回 |
| | 11月 | 第11章 占領下の日本 | | | ○ | | ◎ | |
| | 12月 | 第12章 高度成長の時代 | | | | | | |
| | | 第13章 激動する世界と日本 | | | ◎ | ○ | | |
| 3 学 期 | 1月 | 分野別総合問題演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・ マーク式の演習問題に取り組むことで、知識を整理するとともに、総合的な力の向上を図る。 | | | ◎ | ○ | |
| | 2月 | | | | | | | |
| | 3月 | | | | | | | |

| | |
|-------|---|
| 学習の方法 | 授業を中心に教科書・図説・プリントを活用して日本の歴史の流れを整理・理解していきます。人名や事件の名称を単に暗記するのではなく、歴史事象の背景や結果とその影響などを総合的に理解・考察していくことが大切です。 年3回の定期考査ごとに学習内容をまとめることは当然のこと、入試過去問題や模試などを利用して知識の整理をはかる必要があります。 |
|-------|---|

| | |
|-------|---|
| 評価の仕方 | 定期考査に加え、小テスト・提出物の成績などを総合的に評価します。 また、平常の取組についても評価の対象とします。日本史に関する知識理解はもちろん、歴史に対する興味関心の程度、過去との出来事を分析し、現在や未来に結びつけて物事を考察する歴史的思考力などを総合的に判断して評価します。 |
|-------|---|

| | |
|-------|--|
| 評価の観点 | ① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 資料活用の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。) |
|-------|--|

平成30年度 松山東高等学校シラバス

| | | | | | | | |
|-----|---|-----|------------------------------|----|------|----|----|
| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 地理B | 学年 | 第3学年 | 類型 | Ⅱ型 |
| 単位数 | 3単位 | 教科書 | 新編詳解地理B改訂版（二宮書店） 高等地図帳（二宮書店） | | | | |
| 副教材 | 新編地理資料（東京法令出版）新地理要点ノート（啓隆社） 地理ワークブック（愛媛県高教研地理歴史・公民部会地理部門） 地理統計要覧（二宮書店）地理B一問一答（Z会） | | | | | | |

| | |
|------|--|
| 学習目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代社会の地理的認識を養う。 ・地理学習を通じて、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 |
|------|--|

| | 学習計画及び内容 | | | 評価の観点 | | | | | 定期考査 |
|-------------|----------|---|--|-------|---|---|---|---|------|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | |
| 1 学 期 | 4月 | 第Ⅱ編 現代世界の系統地理的考察 2章 資源と産業 流通と消費 3章 人口と村落・都市 4章 生活文化と民族・宗教 | ・世界の商業・観光・交通・情報通信を取り上げて、それぞれの特色と動向、形成要因に関して考察し、基礎的・基本的知識を習得する。 ・世界の人口分布、人口増加・人口構成に関する動向を取り上げ、形成要因に関して考察する。村落・都市に関する基礎的・基本的知識を習得する。 ・世界の衣食住を取り上げ、それらの分布と特色を理解し、地域性との関連を考察する。民族・宗教・国家の関連を理解し、基礎的・基本的知識を習得する。 | | | | | | 第1回 |
| | 5月 | | | | ○ | ◎ | | | |
| | 6月 | | | ○ | | | ◎ | | |
| | 7月 | | | ○ | | | ◎ | | |
| 2 学 期 | 8月 | 第Ⅲ編 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域 東アジア 東南アジア 南アジア 西アジアと中央アジア 北アフリカとサハラ以南のアフリカ ヨーロッパ ロシア アングロアメリカ ラテンアメリカ オセアニア 3章 現代世界と日本 分野別総合問題演習 | ・現代世界が自然・政治・経済・文化などの指標によって様々な地域に区分できることを理解する。 ・世界の諸地域の事例を通じて、様々な地域の地域性を多面的・多角的に考察し、比較・関連付けることにより地域を地誌的にとらえる視点や方法を身に付ける。 ・日本が抱える地理的な課題を考察し、その課題を多面的・多角的に探究する。 ・演習問題に取り組むことで、総合的な力を養う。 | | | ◎ | ○ | | 第2回 |
| | 9月 | | | | | | | | |
| | 10月 | | | ○ | | | ◎ | | |
| | 11月 | | | | | ◎ | ○ | | |
| | 12月 | | | ◎ | ○ | | | ◎ | 第3回 |
| 3 学 期 | 1月 | 分野別総合問題演習 | ・マーク式問題に取り組むことで、総合的な力を養う。 | | | ◎ | ○ | | |
| | 2月 | | | | | | | | |
| | 3月 | | | | | | | | |

| | |
|-------|--|
| 学習の方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・地理や社会現象全般にわたる基本的知識を応用して、地理的思考力・考察力を養います。 ・具体的な地誌学習を通じて、世界各地の地域性や類似性・法則性、異文化の理解を目指します。 ・地球的な課題を広い視野から総合的にとらえ、その解決方法を深く考察します。 ・大学入試に向けて問題演習などを積極的に取り入れて、学力のレベルアップを目指します。 |
|-------|--|

| | |
|-------|--|
| 評価の仕方 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査に加え、提出物、小テストの成績、日頃の学習態度等を総合的に評価します。 ・地理的基礎知識はもちろん、地理的事象に関する興味・関心の程度、地図・図版・統計資料等を関連づけて、地理的な見方・考え方が身に付いたかを評価します。 |
|-------|--|

| | |
|-------|--|
| 評価の観点 | ① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 資料活用の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。） |
|-------|--|

平成30年度 松山東高等学校シラバス

| | | | | | | | |
|-----|---|-----|----------------|----|------|----|----|
| 教科 | 数学 | 科目 | 数学Ⅲ | 学年 | 第3学年 | 類型 | Ⅱ型 |
| 単位数 | 5単位 | 教科書 | 「詳説 数学Ⅲ」 (啓林館) | | | | |
| 副教材 | 問題集「新課程 サクシード数学Ⅲ完成ノート」(数研出版) 「新課程 クリアー数学演習Ⅲ 受験編」(数研出版) 参考書「新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅲ」(数研出版) | | | | | | |

| | |
|------|---|
| 学習目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学Ⅱでの復習をするとともに、関数の幅を広げて数学Ⅲの基礎力を向上させる。 ・演習においては、基本的な問題を解くことにより重要事項を再確認し、応用的な問題演習で論理的思考力を養うとともに、実力を身に付ける。 |
|------|---|

| | 学習計画及び内容 | | | 評価の観点 | | | | | 定期考査 |
|-------------|----------|--|--|---|---|---|---|---|------|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | |
| 1 学 期 | 4月 | 数学Ⅲ 第5章 微分法 第1節 微分と導関数 第2節 いろいろな関数の導関数 | ・関数の積・商および合成関数・逆関数の微分について学習し、三角関数・対数関数・指数関数の微分ができるようにする。 | ○ | | ◎ | | | 第1回 |
| | 5月 | 数学Ⅲ 第5章 微分法 第3節 導関数の応用 第4節 いろいろな応用 | ・関数の増減や凹凸を調べたり、これらを利用して曲線の概形をかけるようにする。速度・加速度など物理的な性質を調べる。 | | | ○ | ◎ | | |
| | 6月 | 数学Ⅲ 第6章 積分法 第1節 不定積分 第2節 定積分 | ・基本的な関数の不定積分・定積分を求める。また、置換積分法・部分積分法を導入し、重要な方法であることを認識する。 | ○ | | | ◎ | | |
| | 7月 | 数学Ⅲ 第6章 積分法 第3節 面積 第4節 体積 第5節 曲線の長さ | ・面積や体積の求め方を定積分を利用して導くことを理解する。 | | | ◎ | ○ | | |
| 2 学 期 | 8月 | (クリアー) | | | | | | | 第2回 |
| | 9月 | I 複素数平面 | ・複素数とそれが表す図形の関係を明らかにする。ド・モアブルの定理の定着を図る。 | | | ◎ | ○ | | |
| | 10月 | II 式と曲線 | ・2次曲線や媒介変数表示された曲線についての問題を中心に演習を行う。 | ◎ | | | ○ | | |
| | | | III 関数 | ・分数関数・無理関数の理解を深めるとともに、逆関数や合成関数についても習熟を図る。 | ○ | | | ◎ | |
| | | | IV 極限 | ・無限級数の和の求め方とその応用について理解する。また、関数の連続についての定義を再確認する。 | | | ◎ | ○ | |
| | 11月 | V 微分法 | ・様々な関数の微分の仕方を再確認する。 | ○ | | | | ◎ | 第3回 |
| | 12月 | VI 微分法の応用 | ・曲線の凹凸や変曲点を第2次導関数を用いて調べる方法を再確認し、様々な関数のグラフをかくことに適用できる能力を養う。 | | | | ○ | ◎ | |
| | | VII 積分法 | ・置換積分法・部分積分法を再確認する。積分記号を用いた種々の問題の演習を行う。 | | | | ○ | ◎ | |
| 3 学 期 | 1月 | VIII 積分法の応用 | ・面積・体積の求め方を再確認し、積分法の応用を中心に演習を行う。 | | | | ◎ | ○ | |
| | 2月 | | | | | | | | |
| | 3月 | | | | | | | | |

| | |
|-------|--|
| 学習の方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・1学期は教科書と問題集(サクシード)を用いて、基礎力を養います。数学Ⅱでの既習事項を再確認し、数学Ⅲへと発展させていきます。 ・2学期は問題集(クリアー)により、基本問題から応用問題へと進み、入試対策への応用力を身に付けます。 ・年3回の定期考査や確認プリントなどを利用して、基礎学力の定着を図ります。 |
|-------|--|

| | |
|-------|---|
| 評価の仕方 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査に加え、提出物(週末課題、訂正ノート、クリアー演習ノートなど)、小テストの成績などを総合的に評価します。「知識・理解」「数学的な見方や考え方」などを考慮して総合的に評価します。 |
|-------|---|

| | |
|-------|---|
| 評価の観点 | ① 関心・意欲・態度 ② 数学的な見方や考え方 ③ 数学的な技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。) |
|-------|---|

平成30年度 松山東高等学校シラバス

| | | | | | | | |
|-----|---|-------|-------------------|----|------|----|----|
| 教科 | 数学 | 科目 | 数学探究Ⅲ | 学年 | 第3学年 | 類型 | Ⅱ型 |
| 単位数 | 2単位 | 主たる教材 | 「数学探究Ⅲ」(松山東高校数学科) | | | | |
| 副教材 | 問題集「改訂版 キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B 受験編」(数研出版) 参考書「新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅰ+A, 数学Ⅱ+B」(数研出版) | | | | | | |

| | |
|------|---|
| 学習目標 | <ul style="list-style-type: none"> 問題演習を通して、より高度な知識・技能を身に付けるとともに、センター試験・2次試験に対応できる学力を養う。 答案の書き方や用語の使い方に留意し、数学的なものの見方・考え方を身に付け、論理的な思考力を養う。 |
|------|---|

| | 学習計画及び内容 | | | | 評価の観点 | | | | | 定期考査 |
|-------------|----------|------------------|--|---|-------|---|---|---|-----|------|
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | | | | | |
| 1 学 期 | 4月 | 第1章 数と式・方程式・不等式 | <ul style="list-style-type: none"> 因数分解、根号を含む式の計算 絶対値と場合分け、1次不等式の応用 | ○ | | | ◎ | | | 第1回 |
| | 5月 | 第2章 2次関数 | <ul style="list-style-type: none"> 2次関数のグラフと最大・最小 絶対値を含む関数のグラフ 2次方程式・2次不等式の応用 | | ◎ | ○ | | | | |
| | | 第3章 図形と計量 | <ul style="list-style-type: none"> 90° - θ, 180° - θの三角比 正弦定理・余弦定理と図形への応用 | ○ | | | ◎ | | | |
| | 6月 | 第4章 データの分析・集合と命題 | <ul style="list-style-type: none"> データの散らばりと四分位範囲 分散と標準偏差 逆・裏・対偶、必要条件・十分条件 | ○ | ◎ | | | | | |
| | | 第5章 場合の数と確率 | <ul style="list-style-type: none"> 順列、円順列、重複順列、組合せ 重複組合せ、独立な試行の確率 反復試行の確率、条件付き確率 | | ◎ | | ○ | | | |
| | 7月 | 第6章 整数の性質 | <ul style="list-style-type: none"> 約数と倍数、最大公約数と最小公倍数 1次不定方程式、n進法 | | | | ○ | ◎ | | |
| | | 第7章 図形の性質 | <ul style="list-style-type: none"> 三角形の辺の比と外心・内心・重心 方べきの定理、2円の関係 | | ◎ | ○ | | | | |
| 2 学 期 | 8月 | 第8章 いろいろな式 | <ul style="list-style-type: none"> 二項定理、分式式の計算、恒等式 等式・不等式の証明 | | ○ | ◎ | | | 第2回 | |
| | 9月 | 第9章 図形と方程式 | <ul style="list-style-type: none"> 直線上と平面上の点、直線の方程式 2直線の関係、円の方程式、円と直線 軌跡と方程式、不等式の表す領域 | | ○ | | ◎ | | | |
| | 10月 | 第10章 三角関数 | <ul style="list-style-type: none"> 三角関数の応用、加法定理の応用 三角関数の合成 | ○ | | | ◎ | | | |
| | 11月 | 第11章 指数関数と対数関数 | <ul style="list-style-type: none"> 指数関数の応用 対数関数の応用、常用対数 | ○ | ◎ | | | | 第3回 | |
| | | 第12章 微分と積分 | <ul style="list-style-type: none"> 導関数、接線、極大・極小、最大・最小 関数のグラフと方程式・不等式 不定積分、定積分、面積 | | | | ○ | ◎ | | |
| | 12月 | 第14章 数列 | <ul style="list-style-type: none"> 等差数列と等比数列、和の記号Σ 階差数列、群数列 漸化式、数学的帰納法 | | | | ○ | ◎ | | |
| 3 学 期 | 1月 | 第13章 ベクトル | <ul style="list-style-type: none"> ベクトルの演算・成分・内積 位置ベクトルと図形、ベクトル方程式 空間座標における図形とベクトル | | ◎ | | ○ | | | |
| | 2月 | | | | | | | | | |
| | 3月 | | | | | | | | | |

| | |
|------|--|
| 学習方法 | <ul style="list-style-type: none"> 演習中心の授業であるため、家庭での学習が重要になります。予習に力を注ぎ、理解できなかった問題は教科書や参考書で調べ、自力で解決しようとする姿勢が必要です。また、答案の書き方や用語の使い方に配慮する必要があります。自分の考え方が相手に伝わるような答案を心がけましょう。 授業中は説明をよく聞き、理解できなかった問題の解法や、自分の解法と違った方法についても理解するよう努めましょう。授業を受けても分からなかった場合は先生や友人に聞くことも大切です。 |
|------|--|

| | |
|-------|--|
| 評価の仕方 | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査に加え、週末課題やノートの提出、平常テストの成績などを総合的に評価します。 予習の状況や授業中の態度なども評価の対象となります。数学的なものの見方や考え方が身に付いているか、数学に興味・関心を持っているかなど、総合的に評価します。 |
|-------|--|

| | |
|-------|---|
| 評価の観点 | ① 関心・意欲・態度 ② 数学的な見方や考え方 ③ 数学的な技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。) |
|-------|---|

平成30年度 松山東高等学校シラバス

| | | | | | | | |
|-----|--------------|-----|---------|----|------|----|----|
| 教科 | 理科 | 科目 | 物理 | 学年 | 第3学年 | 類型 | Ⅱ型 |
| 単位数 | 4単位 | 教科書 | 物理（啓林館） | | | | |
| 副教材 | セミナー 物理基礎＋物理 | | | | | | |

| | |
|------|---|
| 学習目標 | 物理基礎との関連を図りながら、さらに進んだ物理学的方法で、自然の事物・現象を取り扱い、観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育むとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。 |
|------|---|

| | | 学習計画及び内容 | 評価の観点 | | | | | 定期考査 |
|-------------|-------------|--------------|-------|---|---|---|---|------|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | |
| 1 学 期 | 4月 | 第1編 様々な運動 | | | | | | 第1回 |
| | 5月 | 第1章 物体の運動 | | | | | | |
| | 5月 | 第2章 運動量と力積 | | | ○ | ◎ | ○ | |
| | 6月 | 第3章 円運動と単振動 | | | | | | |
| | 6月 | 第4章 万有引力 | | | | | | |
| 6月 | 第5章 気体分子の運動 | | | | | | | |
| | 7月 | 第2編 波動 | | | | | | |
| | 7月 | 第1章 波と音の性質 | ○ | | | | ◎ | |
| | 7月 | 第2章 光の性質 | | | | | | |
| 2 学 期 | 8月 | 第3編 電気と磁界 | | | | | | 第2回 |
| | 10月 | 第1章 電気と電位 | | | | | | |
| | 10月 | 第2章 電流 | ○ | | | | ◎ | |
| | 11月 | 第3章 電流と磁界 | | | | | | |
| | 11月 | 第4章 電磁誘導と電磁波 | | | | | | |
| | 12月 | 第4編 原子と分子の世界 | | | | | | 第3回 |
| | 12月 | 第1章 電子と光 | | | | | | |
| | 12月 | 第2章 原子と光 | | | ◎ | ○ | | |
| | 12月 | 終章 物理学が築く未来 | | | | | | |
| 3 学 期 | 1月 | 学習のまとめ | | | | | | |
| | 2月 | | | | ◎ | ○ | ○ | |
| | 3月 | | | | | | | |

| | |
|-------|--|
| 学習の方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・暗記のみにとどまることなく、物理にとってその現象にどのような意義や目的があるのかなどを常に考えながら、授業に真剣に取り組むこと。 ・興味の高まった分野、理解の不十分な分野を中心に、副教材を活用して理解を進めること。 ・観察・実験時には予習を行い目的と内容を十分に理解した上で主体的に取り組むこと。実験後は、結果の整理、考察を行い、レポートを提出すること。 |
|-------|--|

| | |
|-------|---|
| 評価の仕方 | 3回の定期考査と観察・実験の取組状況及びレポートの内容、課題の提出状況等を、評価の観点に従って、総合的に判断し、評価する。 |
|-------|---|

| | |
|-------|---|
| 評価の観点 | ① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 観察・実験の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。) |
|-------|---|

平成30年度 松山東高等学校シラバス

| | | | | | | | |
|-----|--------------------------------------|-----|----------|----|------|----|----|
| 教科 | 理科 | 科目 | 化学 | 学年 | 第3学年 | 類型 | Ⅱ型 |
| 単位数 | 4単位 | 教科書 | 化学（数研出版） | | | | |
| 副教材 | スクエア最新図説化学（第一学習社） セミナー化学基礎＋化学（第一学習社） | | | | | | |

| | |
|------|---|
| 学習目標 | 1 化学的なものの見方や考え方を身に付ける。 2 生徒自身が課題を見つけ、主体的・意欲的に実験、観察を行うことで科学的に探究する能力を身に付ける。 3 化学的な事物・現象に関する基礎的な知識および基本的な概念や原理・法則を深く系統的に理解させる。 |
|------|---|

| | | 学 習 計 画 及 び 内 容 | 評価の観点 | | | | | 定期考査 |
|-------------|-------------------------------|--|--|---|---|---|---|------|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | |
| 1 学 期 | 4月 | 第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 | ・有機化合物の特徴・分類や、未知の有機化合物の分子構造を決定する手法を学ぶ。 | | | | | 第1回 |
| | 5月 | 第2章 脂肪族炭化水素 | ・脂肪族炭化水素の性質を理解する。 | | | | | |
| | 6月 | 第3章 アルコールと関連化合物 | ・アルコールとその構造異性体であるエーテルやアルコールの酸化生成物であるアルデヒド、カルボン酸などの化合物について学習する。 | | | | | |
| | 7月 | | | | ○ | ◎ | | |
| 2 学 期 | 8月 | 第4章 芳香族化合物 | ・第2、3章での学習内容をもとに、医薬品や染料など身近なところで広く利用される芳香族化合物の種類や性質を学習する。 | | | | | 第2回 |
| | 9月 | | | ○ | ◎ | ○ | | |
| | 10月 | 第5編 天然有機化合物 第1章 天然有機化合物 | ・糖やアミノ酸の性質を学習する。 | | | | | 第3回 |
| | 11月 | 第2章 天然高分子化合物 | ・分子量の大きな多糖類、タンパク質、核酸などの高分子化合物について学習する。 | | | | | |
| 12月 | 第6編 合成高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 | ・高分子化合物の結合の種類や構造、融点、分子量、溶解性など一般的な性質について学ぶ。 | | | | | | |
| 3 学 期 | 1月 | 第2章 合成高分子化合物 | ・合成高分子化合物を繊維、樹脂、ゴムに分けてそれぞれの構造や重合のしくみについて学習する。 | | | | | |
| | 2月 | | | ◎ | | | | |
| | 3月 | | | | | | | |

| | |
|-------|--|
| 学習の方法 | <p>・毎日の授業を大切にし、授業を通して科学的な見方や考え方ができるように自分の学習目標を設定して努力することが大切です。化学式や化学反応式を単に暗記するのではなく、なぜそうなるのか理由を考え、系統立てて学習していくことが大切です。</p> <p>・科学的に探究する力や態度を育てるためには、実験や観察を積極的に行うことが大切です。短時間で構いませんから予習を確実にし、自分が何をやるのか理解してから臨みましょう。</p> |
|-------|--|

| | |
|-------|---|
| 評価の仕方 | <p>定期考査に加え、授業中に行う小テストや提出物（実験ノートなど）を総合的に評価します。また、平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や実験への参加姿勢も含めて総合的に評価します。</p> |
|-------|---|

| | |
|-------|---|
| 評価の観点 | ① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 観察・実験の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。） |
|-------|---|

平成30年度 松山東高等学校シラバス

| | | | | | | | |
|-----|---|-----|---------------|----|------|----|----|
| 教科 | 理科 | 科目 | 生物 | 学年 | 第3学年 | 類型 | Ⅱ型 |
| 単位数 | 4単位 | 教科書 | 改訂版 生物 (数研出版) | | | | |
| 副教材 | ニューステージ新生物図表 (浜島書店) セミナー生物基礎+生物 (第一学習社) | | | | | | |

| | |
|------|--|
| 学習目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てる。 ・生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育む。 |
|------|--|

| | 学習計画及び内容 | | | 評価の観点 | | | | | 定期考査 |
|-------------|----------|---|--|-------|---|---|---|-----|------|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | |
| 1 学 期 | 4月 | 第1編 生命現象と物質 第1章 細胞と分子 第2章 代謝 第3章 遺伝情報の発現 | <ul style="list-style-type: none"> ・生命現象を支える物質の働きについて観察、実験などを通して探究し、タンパク質や核酸などの物質の働きを理解させ、生命現象を分子レベルでとらえる。 ・生物の生殖や発生について観察、実験などを通して探究し、動物と植物の配偶子形成から形態形成までの仕組みを理解する。 | | | | | | 第1回 |
| | 5月 | | | | ○ | | ◎ | | |
| | 6月 | | | | | | | | |
| | 7月 | 第2編 生殖と発生 第4章 生殖と発生 | | ○ | | ◎ | | | |
| 2 学 期 | 8月 | 第3編 生物の環境応答 第5章 動物の環境応答 第6章 植物の環境応答 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境の変化に生物が反応していることについて観察、実験などを通して探究し、生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解する。 ・生物の個体群と群集及び生態系について観察、実験などを通して探究し、それらの構造や変化の仕組みを理解させ、生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。 | | | | | | 第2回 |
| | 9月 | | | | | ◎ | | ○ | |
| | 10月 | | | | | | | | |
| | 11月 | 第4編 生物と環境 第7章 生物群集と生態系 | | ◎ | ○ | | | | |
| 12月 | | | | | | | | 第3回 | |
| 3 学 期 | 1月 | 第5編 生物の進化と系統 第8章 生命の起源と進化 第9章 生物の系統 | <ul style="list-style-type: none"> ・生物の進化の過程とその仕組み及び生物の系統について、観察、実験などを通して探究し、生物界の多様性と系統を理解させ、進化についての考え方を身に付ける。 | | | | | | |
| | 2月 | | | | | ○ | | ◎ | |
| | 3月 | | | | | | | | |

| | |
|------|--|
| 学習方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・生物現象を考える中で、化学の知識を活用しながら探究的な学習を行うこと。 ・遺伝子の分野は日進月歩であるので、新しい知識を積極的に吸収し、副教材や文献をを活用して理解を進めること。 ・観察・実験時には予習を行い目的と内容を十分に理解した上で主体的に取り組むこと。実験後は、結果の整理、考察を行い、レポートを提出すること。 |
|------|--|

| | |
|-------|--|
| 評価の仕方 | <ul style="list-style-type: none"> ・3回の定期考査成績に加えて、観察・実験の取組状況及びレポートの内容、課題の提出状況等を、評価の観点に従って、総合的に判断し、評価する。 |
|-------|--|

| | |
|-------|---|
| 評価の観点 | ① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 観察・実験の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。) |
|-------|---|

平成30年度 松山東高等学校シラバス

| | | | | | | | |
|-----|-----------------------|-----|----------------------|----|------|----|----|
| 教科 | 保健体育 | 科目 | 体育 | 学年 | 第3学年 | 類型 | 共通 |
| 単位数 | 2単位 | 教科書 | 現代高等保健体育 改訂版 (大修館書店) | | | | |
| 副教材 | 図説 現代高等保健 304 (大修館書店) | | | | | | |

| | |
|------|--|
| 学習目標 | 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。 |
|------|--|

| | | 学習計画及び内容 | 評価の観点 | | | | | 定期考査 |
|-------------|-----|--------------------|-------|---|---|---|---|------|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | |
| 1 学 期 | 4月 | 体づくり運動 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 5月 | 球技選択 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 7月 | 体育理論 体づくり運動・ダンス | ◎ | ○ | ○ | ◎ | | |
| 2 学 期 | 8月 | 体づくり運動・ダンス | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 9月 | 球技選択 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 10月 | | | | | | | |
| | 11月 | 体づくり運動・持久走 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 12月 | 体育理論 | ◎ | ○ | ○ | ◎ | | |
| 3 学 期 | 1月 | 球技選択 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 2月 | 体育理論 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 3月 | | | | | | | |

| | |
|-------|---|
| 学習の方法 | <ul style="list-style-type: none"> 本校独自の「東高体操」や「集団走」などみんなで一生懸命に授業に取り組むことを大切に授業を行っていきます。東高生として、授業へ取り組む真面目な姿勢が大切です。 運動技能の基礎基本を確実に学習し、仲間とともに体を動かす楽しさと喜びを味わい、自らの体力に応じて、自分の可能性に挑戦していきます。 |
|-------|---|

| | |
|-------|--|
| 評価の仕方 | 各種目や内容について、運動技能だけでなく、授業に対する意欲や運動やスポーツへの関心、一生懸命に頑張る態度など総合的に評価します。 |
|-------|--|

| | |
|-------|--|
| 評価の観点 | ① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 運動の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。) |
|-------|--|

平成30年度 松山東高等学校シラバス

| | | | | | | | |
|-----|-------------|-----|-------------------------------------|----|------|----|----|
| 教科 | 外国語 | 科目 | コミュニケーション英語Ⅲ | 学年 | 第3学年 | 類型 | 共通 |
| 単位数 | 4単位 | 教科書 | CROWN English Communication Ⅲ (三省堂) | | | | |
| 副教材 | CROSSBEAM 5 | | | | | | |

| | | | | |
|-------|------|--|------|--|
| 到達度目標 | 話すこと | <ul style="list-style-type: none"> ・与えられた条件に合わせて、即興で話したり、伝えたい内容を整理して論理的に話すことができる。 ・情報や考えなどを聞いて、質問したり意見を述べたりし話題を発展させることができる。 ・立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べるができる。 | 書くこと | <ul style="list-style-type: none"> ・論点や根拠などを明確にし、文章の構成を考えながら書くことができる。 ・説明や描写の表現を工夫して、相手に効果的に伝わるように書くことができる。 ・効果的な事例を取り入れながら、自分の意見や感想を論理的に整理して書くことができる。 |
| | 聞くこと | <ul style="list-style-type: none"> ・対話や説明などを聞いて、情報や考えなどを的確に理解したり、概要や要点をとらえたりできる。 ・未知の語の意味を推測したり、背景となる知識を活用したりしながら聞くことができる。 ・主題と詳細情報を区別しながら理解できる。 | 読むこと | <ul style="list-style-type: none"> ・書かれた情報や考えなどを的確に理解したり、概要や要点をとらえることができる。 ・速読したり、精読したりするなど、目的に応じた読み方をするができる。 ・書き手の意図などを正確に理解して、自分の意見と比較しながら批判的に読むことができる。 |

| | 単元 | 主な単元の目標 | 評価の観点 | | | | | 定期考査 | |
|-----|----------|---------|--|---|---|---|---|------|-----|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | | |
| 1学期 | 4月 | L.1 | <ul style="list-style-type: none"> ・柔道の創始者の生涯とその功績を、時系列を追って理解させる。 ・時間的順序のディスコースマーカを意識して読ませる。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | 第1回 |
| | 5月 | L.2 | <ul style="list-style-type: none"> ・マイクロファイナンスの仕組みを把握させ、その取り組みの具体例と成果を読み取らせる。 ・例示・列挙・新情報の追加のディスコースマーカを意識して読ませる。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 6月 | L.3 | <ul style="list-style-type: none"> ・モナ・リザが有名な絵となった経緯を把握させる。 ・言い換え、要約・結論のディスコースマーカを意識して読ませる。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 7月 | L.4 | <ul style="list-style-type: none"> ・どうして地球上で使える水が0.08%しかないのか、その解決方法としてどのようなことを提言しているのかを読み取らせる。 ・原因・理由と結果のディスコースマーカを意識して読ませる。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | |
| 2学期 | 8月 | L.5 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本とフィンランドの税制の違いを読み取らせて、それぞれの特徴を考えさせる。 ・逆接・対比のディスコースマーカを意識して読ませる。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | 第2回 |
| | 9月 | L.6 | <ul style="list-style-type: none"> ・どうして著者は地球をLucky Planetと呼んでいるのか、他の星と比較してその理由を把握させる。 ・スキミングをさせて大意を素早く読み取らせる。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 10月 | L.7 | <ul style="list-style-type: none"> ・世界人口がどのように変遷しているのかを読み取らせる。 ・グラフの数字を把握しながら英文の内容を理解させる。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | 第3回 |
| | 11月 | L.8 | <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情や行動の原因と理由を把握させ、最終的に話がどのような流れになっているのかを理解させる。 ・文中には語句で明示されていない行間の内容まで読み取らせる。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | |
| 3学期 | 12月 | L.9 | <ul style="list-style-type: none"> ・三人の生徒が主張している内容を把握させ、それぞれの意見の違いを理解させる。 ・主張している内容と理由、そして結論をきっちり分けて把握させる。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 1月 | L.10 | <ul style="list-style-type: none"> ・東京スカイツリーがどのような建築物かを把握させ、そのデザインに込められた意味や機能について理解させる。 ・入試を見据えたリスニング問題に挑戦させる。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 2月 3月 | | | | | | | | |

| | |
|------|---|
| 主な活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・メモや写真等を利用して与えられたテーマについて話す。 ・本文の内容に関する英問に英語で答える。 ・キーワードを使って本文の要約を相手に口頭で伝える。 |
|------|---|

| | |
|----|---|
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組 ・ワークシート、予習プリントなどの課題への取組 ・音読テスト、口頭テストなどのインタビューテスト ・単元テスト、単語テストなどの小テスト |
|----|---|

| | |
|-------|---|
| 評価の観点 | ① 関心・意欲・態度 ② 表現能力 ③ 理解能力 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。) |
|-------|---|

平成30年度 松山東高等学校シラバス

| | | | | | | | |
|-----|---|-----|--------------------------------------|----|------|----|---------|
| 教科 | 外国語 | 科目 | 英語表現Ⅱ | 学年 | 第3学年 | 類型 | Ⅱ型・ⅡSG型 |
| 単位数 | 2単位 | 教科書 | Departure English Expression Ⅱ (大修館) | | | | |
| 副教材 | アップリフト英作文・英文速読ドリル10minutes Level 2 (Z会出版) | | | | | | |

| | | | | |
|-------|------|--|------|---|
| 到達度目標 | 話すこと | <ul style="list-style-type: none"> 与えられた場面において、状況や立場に応じて自分の用件を正確な英語で伝えることができる。 英文の内容に関する質問について、根拠文を正しく捉え、自分なりの英語で答えることができる。 与えられたテーマについて、自分の考えを即興で相手に伝えることができる。 | 書くこと | <ul style="list-style-type: none"> 与えられたテーマについて、賛成・反対の立場とその理由を具体例を示して書くことができる。 自分の意見や考えを段落構成を考えながら100語程度で書くことができる。 英文の内容について、自分なりの英語で要約することができる。 |
| | 聞くこと | <ul style="list-style-type: none"> 対話や説明などを聞いて、キーワードを捉え、大意を把握することができる。 英語音声の特徴を理解し、音連結を踏まえて英文の内容を正しく聞き取ることができる。 | 読むこと | <ul style="list-style-type: none"> 説明文やエッセイ、対話形式など様々な形態の英語を、重要な事実を捉えながら正しく読み取ることができる。 英語音声の特徴を理解し、音連結を踏まえて正確に音読することができる。 |

| | 単元 | 主な単元の目標 | 評価の観点 | | | | | 定期考査 |
|---------|---------------------------|---|-------|---|---|---|---|------|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | |
| 1 学期 | 4月 Part 3 Lesson 1 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を整理してまとめて表現する。 英語学習の意義や利点について、データをもとにブレインストーミングをする。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | 第1回 |
| | 5月 Part 3 Lesson 2 | <ul style="list-style-type: none"> 賛成・反対の立場に立って、自分の意見を表現する。 自転車の免許制に反対する立場から、データをもとにブレインストーミングをする。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 6月 Part 3 Lesson 3 | <ul style="list-style-type: none"> 物事の長所・短所を考えて、自分の意見を表現する。 電子書籍の例を参考に電子辞書の長所と短所をブレインストーミングする。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 7月 Part 4 Lesson 1 | <ul style="list-style-type: none"> Show & Tellで自分の意見を伝える。 電子書籍の例の文章を参考にし、肉付けをした各文をまとめ、電子辞書について、4つのパラグラフで書く。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | |
| 2 学期 | 8月 Part 4 Lesson 2 | <ul style="list-style-type: none"> Speechで自分の意見を伝える。 書いた原稿を暗記し、大切なポイントを理解して何度も練習をしてから、グループで発表する。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | 第2回 |
| | 10月 Part 4 Lesson 3 | <ul style="list-style-type: none"> Presentationで自分の意見を伝える。 質問を頼りに、環境のためできる身近なことについてブレインストーミングをする。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 11月 Part 5 Lesson 1 | <ul style="list-style-type: none"> Mini-Debateで意見の交換をする。 提示された論題に対して、肯定側、否定側双方の立場から、できるだけ多くの理由を考え、Constructive Speechを作成する。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | 第3回 |
| | 12月 Part 5 Lesson 2 | <ul style="list-style-type: none"> Debateで意見の交換をする。 Constructive SpeechのアウトラインにSupportingを付け加えてスピーチを完成する。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 1月 Part 5 Lesson 3 | <ul style="list-style-type: none"> Panel Discussionで意見の交換をする。 提示されたテーマについての現状を、さまざまな角度から分析する。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | |
| 3 学期 | 2月 | | | | | | | |
| | 3月 | | | | | | | |

| | |
|------|--|
| 主な活動 | <ul style="list-style-type: none"> 与えられたテーマについて、英語で分かりやすく話す。 与えられたテーマに関して、ある程度まとまった文章を書く。 与えられたテーマでディスカッションやディベートをする。 |
|------|--|

| | |
|----|---|
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組 ワークシート、予習プリントなどの課題への取組 音読テスト、口頭テストなどのインタビューテスト 単元テスト、単語テストなどの小テスト |
|----|---|

| | |
|-------|---|
| 評価の観点 | ① 関心・意欲・態度 ② 表現能力 ③ 理解能力 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。) |
|-------|---|